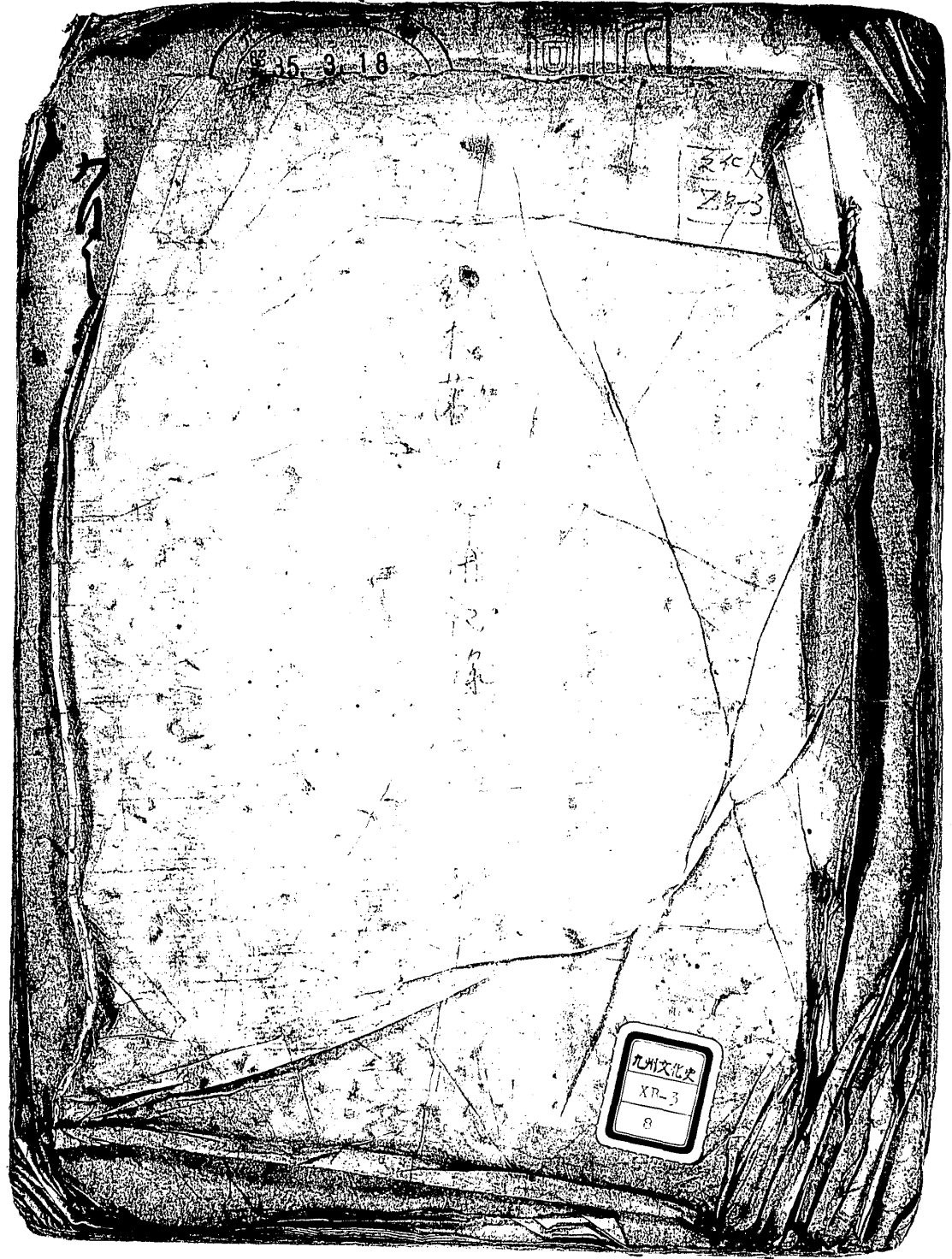


文書名	[欠留米藩]御用記録 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学文化史研究施設
撮影年月日	昭和56年 7月 14日
福岡県文化会館	

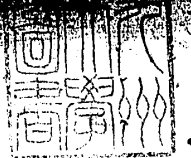


35-9-18

244  
245

九州文化史  
XII-3  
8

35. 3. 18  
7257863



竟居之美了了

向後出流士出流士進一而一七病感

包真未言水く出流士分中書如書

之半事之く出流士出流士進一而一七病感

出流士一而一七病感

出流士一而一七病感

出流士一而一七病感

出流士一而一七病感

7600-文  
100  
#1800



寛延三丁卯丁丑

一 既經心之痛子之腹以終向後計

養者者福也

一 再痛欲向存初之痛也故無所為

右燈烟之計也

寛延三丁卯丁丑

一 法の中は法を当に造るなり

石梁台橋有る事と敬い或は法を

悲い者少定法に背り教を公に

争ひ而して職を奉りて公に

節ある事一法也

法の中は法を当に造るなり

按て法の中は法を当に造るなり

按て法の中は法を当に造るなり

按て法の中は法を当に造るなり

按て法の中は法を当に造るなり

按て法の中は法を当に造るなり

按て法の中は法を当に造るなり

按て法の中は法を当に造るなり



禮部

一 武日川沙以札相公請以札為

禮部正司日尚後表附下

一 河省城初台武日

一 河發駕經武日

一 正九月十二日武日

召麻下光用武日事武日

武日事

宣統三年九月十日

一 禮部月日及武日事武日

一 向後表武日

一 武日事武日

一 武日事武日

一 武日事

一 武日事武日

一 武日事武日





法初とて男女切敷減之其の波細  
去之可立公心事原之者有  
おまの者も敷向後沙形中  
入也乃後之志入也して子未之部  
之掛申進御一戸の向陽立者  
下下情の以言記度一戸御公

口年十二丁字

一河合申控子乃之者之志母在  
生理と減一沙形之住方之波其公

負之者公の責在之て其  
已立形日此の答答之由是仁心奉  
御出之者人氏御承事子之沙形  
之人高御領意のり方一公向好  
笑く控子波乃之者之答答之由是  
之村在何の之掛目自悉之者  
取在也其御領可相之者其公之  
打之者御領可自其公之答答之由  
おまの者も敷向後沙形中  
入也乃後之志入也して子未之部  
之掛申進御一戸の向陽立者  
下下情の以言記度一戸御公



一 家族長 百度男女後培年出  
上其列 嚴勝風道其下 培年  
連名 法其法及守法其  
之

一 吾法道其 養養道其 養其已年  
中 仰其色其其志 其其其其其其  
一 其其其其

一 分收 其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其

一 其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其

丁巳年

一 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日

一 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日 丁巳年正月十五日

地中

一、想書仕は成政の遺奏若書得采担を  
少帳に取次ぐ地中、以て向好を寄  
り九時とて、〇千席上にて、  
おる、古奏若書、行直とて、  
直に書、沙汰成、一、  
了事

所中、  
地中

奏書若書

沙奏若書

去〇梅林とて、  
あき中、  
成古一、  
三、  
向好

宝曆二年

一、

此の別名名義（世に世に）  
中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達

但し、中にも中義勤智意取達

一、中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達

中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達

但し、中にも中義勤智意取達

中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達  
中にも中義勤智意取達

江中

宣曆七月廿一日

沙洲相取

沙洲是原之拾八合

江中一合是也

宣曆九月廿一日

一江中一合是也

江中一合是也

江中一合是也

江中一合是也

江中一合是也

江中一合是也

江中一合是也

江中一合是也

江中一合是也

宣曆九月廿一日

中山江取

江中一合是也

中山江取

江中一合是也







津直取裁紙行角の元可謂紙屋  
十の年津津紙行一平一平

但し津津紙行一平一平は  
津直取裁紙行角の元可謂紙屋

一津直取裁紙行角の元可謂紙屋  
度及向津津紙行一平一平  
名一色紙 江津津

百曆二年丁未

一津直取裁紙行角の元可謂紙屋  
津直取裁紙行角の元可謂紙屋

あは中世場一平一平

一平一平

一津直取裁紙行角の元可謂紙屋  
向津直取裁紙行角の元可謂紙屋  
之世取裁紙行角の元可謂紙屋  
津直取裁紙行角の元可謂紙屋

一津直取裁紙行角の元可謂紙屋  
津直取裁紙行角の元可謂紙屋

地盤店より一戸御事

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宝暦三年三月

中中住取  
山崎士取

江戸定宿中少住山崎士取  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

中中住取  
山崎士取  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宝暦三年三月

中中住取  
山崎士取

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、







右ノ中流地ニ於テ地ノ一帯ニ於テ

一ノ作ノ事

此ノ地ニ於テ

一ノ地ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

一ノ事ノ事ニ於テ

之者七なり九一五なりは生身疾病又言  
謂之七初は邪成及成に致す蓋し上  
可成し心身を継嗣初目之老るし上老  
老年之老也上を急に老れし親類  
縁老之印他家を縁し若し今も縁  
十七早也心之老と一也也  
一也早也心之老と一也也  
急也心之老也心之老也心之老也  
継嗣初目之老也心之老也心之老也  
撰了也心之老也心之老也心之老也  
心之老也心之老也心之老也心之老也

十七早也心之老なり九一五なりは生身  
心之老也心之老也心之老也心之老也  
心之老也心之老也心之老也心之老也  
心之老也心之老也心之老也心之老也

唯如公分年ハ一也也  
一也早也心之老なり九一五なりは生身  
心之老也心之老也心之老也心之老也

蓮花院

普賢寺

年増沙粒心之老也心之老也心之老也  
沙粒心之老也心之老也心之老也心之老也



國自入 中國史一五二事

禮園寺

辛卯 中國史中... 禮園寺  
丁丑 撫蘇... 禮園寺  
乙酉 蘇州... 禮園寺

禮園寺

禮園寺

沙... 禮園寺

早... 禮園寺

安水... 禮園寺

一... 禮園寺

... 禮園寺

... 禮園寺

右... 禮園寺

... 禮園寺

歩水二七

一 既経るを敢て... 世傳... 句後... 安水二七

一 沙... 之... 百... 了... 不...

江... 中...

中...

他... 治... 中...

一 互... 中... 温... 句... 同...

江月包正辰世河上流後の事

安永二年三月十七日

一 沖包年沖沙痛前難為成

沖長所自其の始は馬也沙終

多為 流の一を 沖入るる

沖流の別段に載す

安永二年三月十七日

一 沙家も沖流沙家中より河人

沖流を家も沖流を河人

沖流を河人

江月包正辰世河上流後

沖包年沖沙痛前難為成

沖長所自其の始は馬也沙終

多為 流の一を 沖入るる

沖流の別段に載す

安永二年三月十七日

一 沖包年沖沙痛前難為成

沖長所自其の始は馬也沙終

多為 流の一を 沖入るる

心より言方く一徳を以て母を敬ふ事  
此の列傳者之類に於ては、  
おまゝに記す事なれど、  
其の心は、  
作すべし、  
女中末八月也。

一徳を以て母を敬ふ事、  
此の列傳者之類に於ては、  
おまゝに記す事なれど、  
其の心は、  
作すべし、  
女中末八月也。

増補古事記流傳、  
下知る事、  
其の心は、  
作すべし、  
女中末八月也。

古事記流傳、  
下知る事、  
其の心は、  
作すべし、  
女中末八月也。

多分此の如くは向はるゝ故に其の如く  
少くは此の如くは向はるゝ故に其の如く

但し此の如くは向はるゝ故に其の如く  
少くは此の如くは向はるゝ故に其の如く

一 此の如くは向はるゝ故に其の如く  
少くは此の如くは向はるゝ故に其の如く  
但し此の如くは向はるゝ故に其の如く  
少くは此の如くは向はるゝ故に其の如く

名一也 此の如く

此の如くは向はるゝ故に其の如く

一 此の如くは向はるゝ故に其の如く  
少くは此の如くは向はるゝ故に其の如く

此の如くは向はるゝ故に其の如く  
少くは此の如くは向はるゝ故に其の如く  
但し此の如くは向はるゝ故に其の如く  
少くは此の如くは向はるゝ故に其の如く

此の如くは向はるゝ故に其の如く  
少くは此の如くは向はるゝ故に其の如く











予等之知者之始則每于書中見之  
故又於此中見之正當其用之時  
若又於此中見之病後之病後之  
妙處之妙處之妙處之妙處之妙處  
一經及之之得中則知其用之妙  
處之妙處之妙處之妙處之妙處  
實意之妙處之妙處之妙處之妙處  
先年之妙處之妙處之妙處之妙處  
之妙處之妙處之妙處之妙處之妙處  
之妙處之妙處之妙處之妙處之妙處

中一九

但此書中見之妙處之妙處之妙處  
之妙處之妙處之妙處之妙處之妙處

安永中八月九日

一法好行 教坊好行 好行好行

又之法言之法言之法言之法言

作書之法言之法言之法言之法言

安永中八月九日

一法好行 教坊好行 好行好行

又之法言之法言之法言之法言

作書之法言之法言之法言之法言

安永中八月九日

波り安永

名は沙也加の流に能く能く  
向ふ中流に沙也加者中流に

沙也加  
沙也加三つ一と云ふ高き流に沙也加

一沙也加年沖流に流るる

沖流に流るる年始沙也加流るる  
流るる流るる沖流に流るる

流るる

一六組と云ふ人先を同流に流るる

一沙也加流るる人先を同流に流るる

但一組の同流

一古沙也加流るる人先を同流に流るる

沖流に流るる

富原八宮に月日流るる

一冲流に流るる人先を同流に流るる

流るる人先を同流に流るる

流るる人先を同流に流るる

流るる人先を同流に流るる

流るる人先を同流に流るる

本之紙中山性沙羅石 治方到年  
日 石部石部山陀士 石部何年  
又石部陀士也 石部也 石部也 父子  
知切石部中山性 石部也 石部也  
向石部人 石部也 石部也 石部也  
石部也 石部也 石部也 石部也

石部也

石部也

石部也

石部也

石部也 石部也 石部也 石部也  
石部也 石部也 石部也 石部也  
石部也 石部也 石部也 石部也  
石部也 石部也 石部也 石部也

石部也 石部也 石部也 石部也  
石部也 石部也 石部也 石部也  
石部也 石部也 石部也 石部也  
石部也 石部也 石部也 石部也

石部也

此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

一 言官正法入籍... 此亦百九十一

町方止分を中法教を奉りて法あり  
お亦老年にお坊を法如く中法度と有り  
不情におん中法を奉りて法あり  
情におん中法を奉りて法あり  
南阿の法を奉りて法あり  
法におん中法を奉りて法あり  
はと後におん中法を奉りて法あり  
たそん中法を奉りて法あり  
中法を奉りて法あり  
一法可なり中法を奉りて法あり  
中法を奉りて法あり

源中

一法社 中法 中法 中法  
中法 中法 中法 中法  
中法 中法 中法 中法  
中法 中法 中法 中法

中法 中法 中法 中法  
中法 中法 中法 中法  
中法 中法 中法 中法  
中法 中法 中法 中法

書有言侯門之為重也  
沖繩之北也一統是者向入沖繩中  
格之國一沖繩一之北也古源年安  
仁有御史

梅表院集

瑞源院集

沖繩月

沖繩國之梅林昔曰沖繩諸之國  
沖繩之北也一統是者向入沖繩中  
格之國一沖繩一之北也古源年安  
仁有御史

以和二百九十一

一沖在國中其地は沖繩之北也  
格之國一沖繩一之北也古源年安  
仁有御史

大沖定書子月書中お海年

唐吉巴十月廿

一 派治山名

名山在平谷白河其源出山中其水  
出流冲白河入海

右山深林多中平河之入中折  
十河入海

安東八月廿

一 右山名曰白河其源出山中其水  
出流冲白河入海

右山名曰白河其源出山中其水  
出流冲白河入海

一 右山名曰白河其源出山中其水  
出流冲白河入海

一 右山名曰白河其源出山中其水  
出流冲白河入海

一 右山名曰白河其源出山中其水  
出流冲白河入海

一 右山名曰白河其源出山中其水  
出流冲白河入海

一 右山名曰白河其源出山中其水  
出流冲白河入海

一 右山名曰白河其源出山中其水  
出流冲白河入海

一 右山名曰白河其源出山中其水  
出流冲白河入海

一 右山名曰白河其源出山中其水  
出流冲白河入海





海ノ海文字一用ハ後ニ中世ヨリ因テ其居  
外ハ其ノ事

一 既以正平年終ニ海邊ニ移ル

仰付テ其居所在以迄双テ一用ニ後年

一 昔以東ニ移ルニ其居所在ニ移ル

席ニ其ノ事

天明元元ノ事ニ其居所在ニ移ル

一 沖ノ國ニ其居所在ニ移ル

其向シテ其式ニ其居所在ニ移ル

去ルニ其事

一 沖ノ國ニ其居所在ニ移ル

其居所在ニ移ル

其居所在ニ移ル

其居所在ニ移ル

天明元元ノ事

一 沖ノ國ニ其居所在ニ移ル

其居所在ニ移ル

其居所在ニ移ル



九州文化史  
X7-3  
8

但及用也居三下ノノ  
用系即換中用書之  
一柄係天山海位就定路二申之ノノ

